

薩摩川内

広報

さつませんだい



Aug.2024
vol.476

夏の日の川内川に
思いを馳はせる



友だち
募集中



自治体広報紙配信
アプリ「マチイロ」
ダウンロード
はこちら





皆さんは川内川でボートを漕いでいる人を見たことがありますか。実は、本市は全国でも有数のローイング(ボート)競技を行うことができる市町村の一つです。

今回はそんなボート競技の全国大会の一つで、今年の9月7日、8日に本市で初めて開催される薩摩川内市誕生20周年記念第33回全国市町村交流レガッタについて紹介します。



▲前回の全国市町村交流レガッタの様子 (長野県下諏訪町)

★出場選手インタビュー

川内小学校校長

中川路 和孝氏



・大会参加のきっかけは?

30年以上前になりますが、私は大学時代に漕艇部に所属しており、初めて参加した大会が「川内レガッタ」でした。昨年、本大会参加の呼び掛けがあったことをきっかけに、川内中央中学校校区の校長たちでチームを結成しました。

・大会への意気込みは?

練習期間は4カ月と短いですが、仕事の合間を縫って練習に励んでいます。チームワークを活かして、見ている人に元気と感動を与えられる漕ぎを見せたいと思います。河川敷からレースを見ることができるので、小中学生に見てもらいたい、川内川への愛着を持ってほしいです。



●そもそもレガッタって?

レガッタとは、ボートやカヌーなどの競技大会のことです。本大会は全国から約1000人の選手が参加し、全国ボート場所在市町村協議会が主催となって開催されます。



使用する艇(ボート)の種類は舵手付きナックルフォアというものです。4人の漕ぎ手がそれぞれ長さ約3.8メートルのオールを一本ずつ操って艇を進め、1人が舵手(コックス)として舵を切り、進行方向を決めます。漕ぎ手は進行方向から順に、パウ、2番、3番、ストロークと呼びます。

●見どころ

舵手の掛け声のもと、漕ぎ手たちが息を合わせ、オールの動きがぴったりと合う様子は壮観です。

スタートダッシュをかけるチームや、温存してラストスパートを仕掛けるチームがあり、ゴール直前まで繰り広げられる駆け引きは必見です。



オールの動きが合わないと、バランスを崩して艇が大きく傾くこともあるんだって!



▲舵手付きフォア(ナックル艇)

艇は長さ約10・7メートル、重さ約1000キログラムの大きなもので、乗員(クルー)の体重を合わせると合計3500・5000キログラムもの重さとなるため、息を合わせて漕がなければ速く進まないんだって。



全国市町村交流レガッタの概要

●ルール

・コース距離 4400メートル (開戸橋から太平橋の間)
・競技種目

- ① 男子(160歳未満)の部
 - ② 女子(160歳未満)の部
 - ③ 男子(160歳以上)の部
 - ④ 女子(160歳以上)の部
- ※カッコ内の年齢は漕ぎ手の年齢の合計
- ⑤ 男女混合の部(漕ぎ手男女各2人)
 - ⑥ 議会議員の部

・レース5チームが出場し、1位のチームのみが決勝へ進出します。
・市町村対抗として決勝戦の順位ごとにポイントが与えられ、総合優勝を競います。

●市ローイング協会の取り組み

本大会の運営を行う市ローイング協会は令和2年に新設された川内川交流センターを管理しており、本市のローイング競技の拠点となっています。

川内川交流センターは貸会議室と艇庫を備え、市所有の艇の貸し出しを行っています。詳しくは市ホームページをご確認ください。



▲市ホームページ

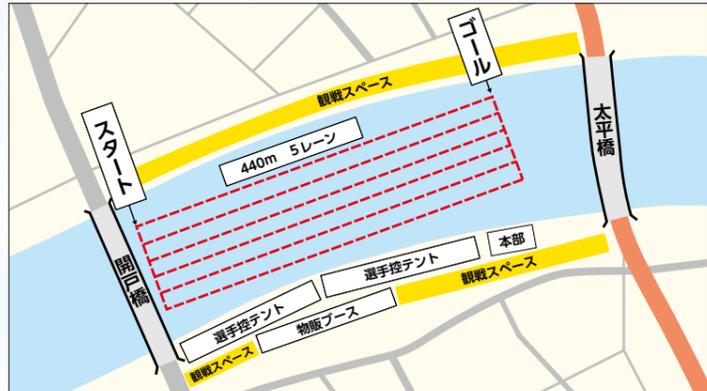


▲川内川交流センター(西開聞町)

また、本協会は毎年8月に開催される「川内レガッタ」や、4年に1度開催される「早慶レガッタin薩摩川内」(次回は今和7年に招聘予定)を運営しています。

●日程

- 〔1日目〕9月7日(土)
 - ・8時〜11時 公式練習
 - ・12時〜17時 予選レース
 - ・18時〜19時 開会式、歓迎会
 - 〔2日目〕9月8日(日)
 - ・8時〜11時 交流戦、決勝レース
 - ・12時30分〜13時 表彰式、閉会式
- ※レースの観戦は無料
※雨天決行、荒天により中止の場合があります。



▲全国市町村交流レガッタのコース

川内川交流センターの新設やこれまでの国体が機運となり、週末になると高等学校や大学の漕艇部などが練習している、多い時には1000人を超える人たちが川内川に集まるそうです。



▲舵手付きクォドルプル(スカル艇)

現在の競技は重く安定したナックル艇よりも、軽量で細く、スピードが出るスカル艇が主流であり、本市の高校生は今年のインターハイに出場しました。また、本市出身者でインターカレッジで全国一位となった選手もいます。市ローイング協会は本大会の安全な運営と機運醸成に向けて準備を進めています。

人のとなりに

井上 則之

私たちのまちを豊かに彩る川内川。そんな川内川の水面を切って静かに進むボート。
今回は、本市ローイング協会会長として漕艇の普及活動や、指導など行っている井上さんの漕艇への思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。



漕艇との出会い

「試合の時は、部員全員で宿泊することができるといって、高校の部活動紹介を聞いて漕艇を始めた井上さん。和気あいあいとした雰囲気引かれ、漕艇部に入学したそうです。」

「高校2年生の時に、鹿児島島でインターハイが開催されることになりました。漕艇部に30人入部したと聞きつけた当時の県ポーター協会は、部活の強化を図りましたが、練習がきつくと、最終的に残った部員は5人でしたと言います。」

そんな中、主将となった井上さんは、「学校が終わったら、すぐ川内川でボートを漕いでいた」と笑顔で話してくれました。

井上さんが思う漕艇の魅力は、仲間と息を合わせながら、全力で船を漕ぐ姿だそうです。「きつい場面が来た時に、前後で必死になって漕いでいる仲間の姿が見えるから、自然と頑張ろうという気持ちが湧いてくる」と言います。

地元でもう一度

京都の大学を卒業後、地元に戻ると、当時の高校生がボートを漕いでいるのを見たことをきっかけに、再び漕艇を始めたそうです。石川県で開催さ

れた国民体育大会にも出場し、その後、他の漕艇部のOB・OGから現在のローイング協会を作ろうと機運が高まり、市民の方にボートを身近に感じてほしいという思いで、本市ローイング協会の発足に関わったことも教えてくれました。

競技者の安全を守るために

漕艇は、川へ転覆することもある競技です。井上さんは、ローイング協会会長として、会員と協力し、川で活動する方々の安全を守るため、転覆した時にすぐ艇を出して助けにいけるように見守り活動をしています。また、陸と艇を通信機器でつないで広く監視できるように安全に配慮した取り組みをしています。さらに、市内の高校の漕艇部のコーチとしても活動する井上さん。コーチを始めたのは、漕艇の審判として九州大会に行ったことがきっかけだったそうです。井上さんが各県の審判やコーチと親しく話している姿を見た高校生たちに、「僕たちを強くしてください」と頼まれ、コーチをすることになったといいます。

「指導していく中で、あいさつがしっかりできるようになり、仲間と協力している姿を見たりするときに、やりがいを感じる。出会った方々に助

漕艇をもっと身近に

漕艇はまだまだ知名度が低い競技ですが、本市には、令和2年に川内川交流センターができ、とても優れた練習環境が整備されています。週末には、漕艇の練習をしに多くの人が集まるそうです。

「今年9月に、本市で開催される全国市町村交流レガッタは、市民の皆さんにもっと漕艇の事を知ってもらえる良い機会。本市のローイング協会会長として、漕艇を身近に感じてもらうように頑張っていきたいです」とこれからの活動への思いを話してくれました。



自治会に加入して、コミュニティ活動に参加しよう

自治会とは

自治会は、一定の区域に住む人々が和気あいあいと住みやすいまちを目指し、地域のみんなで運営する集まりです。普段の暮らしにおける困り事など、一人では解決できないことも、地域の問題として捉え、みんなで考え、支え合うことを目的とした住民自治組織です。本市の自治会加入率は、73・7%（令和6年4月現在）で、多くの住民が参加しています。

また、自治会を地区の単位で包括し、スポーツ協会や子ども会などの団体の運営体制や、事務局体制の強化を図りながら、より充実した横断的な取り組みを展開する住民自治組織が、地区コミュニティ協議会です。

自治会や地区コミュニティ協議会ではこのようなことをやっています

きれいなまちづくり

ごみステーションの清掃や管理、資源回収、リサイクル活動の他、道路のごみ拾いや草刈りなどの環境美化などにも取り組んでいます。



触れ合えるまちづくり

お祭りやイベントなどの地域の交流事業や子ども会や老人会などへの支援を行っています。

また、広報薩摩川内の配布やまちの情報を提供しています。



安全安心なまちづくり

防犯灯の設置や維持管理などの防犯の取り組み、自主防災組織をはじめとした防災活動や交通安全活動などを通して、安全安心な地域づくりを目指しています。

また、地域の困り事や悩みを共有し、みんなで考えたり、自分たちでできることに取り組んだりすることで、解決できることもあります。



住みやすいまちづくりのために

自治会加入の申し込みは、お住まいの地域の自治会長に自治会加入申込書を持参してお申し出ください。
※自治会加入申込書は、市ホームページからもダウンロードできます。
※自治会長が分からない方は、コミュニティ課までお問い合わせください。



市ホームページ

～自治会や地区コミュニティ協議会は、会員の皆さまの会費で運営されています～

いつでも助け合う

コミュニティとは、今暮らしている地域をより良くしようという人々の活動によって生み出される生活のことです。コミュニティをより良くするために、本市では自治会や地区コミュニティ協議会における交流や環境美化福祉などの活動を行っています。

また、近年の異常気象の増加に伴い、防災の観点からコミュニティの重要性が増しています。平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、救助された方のうち、約80%が、自力または家族・近隣住民の救助活動によるものだったといわれています。

これを教訓として、各地で自主防災組織が強化され、平成28年熊本地震や令和6年能登半島地震においても、自治会組織などを中心とした自主防災組織が、消防団と連携して救出作業や安否確認、炊き出しをはじめとした自主避難所の運営などを積極的に展開しました。

地域の人たちと触れ合い、交流を深めていきましょう。つながりを通じて日常の困り事から、いざという時も助け合い、支え合うまちにしていきたいです。

問合先／コミュニティ課
コミュニティG(内線4613)

祝 薩摩川内市誕生20周年

市が誕生してから今日まで20年の間、本市では人と人との交流が盛んに行われてきました。
 新型コロナウイルス感染症流行時期には、イベントなどを行うことができずでしたが、現在はアフターコロナで新しいイベントなども開催されるようになり、日々のにぎわいを取り戻しつつあります。
 今回は、東部区域（樋脇、入来、東郷、祁答院）で行われている人と人との交流を紹介していきます。



東郷

令和元年、本市初となる小中一貫校として、東郷学園義務教育学校が開校しました。5小学校の児童と1中学校の生徒が集まった校舎には、児童・生徒たちのにぎやかな声が響いています。各小中学校の閉校跡地は、さまざまな事業に活用されていて、新たににぎわいが創出されています。

また、地区コミュニティ協議会主催で、個性豊かなイベントが開催されています。地域の人だけでなく、観光客なども巻き込もうと、地域全体で盛り上がりを見せています。



▲ひな祭りスタンプラリー



▲東郷学園義務教育学校

祁答院

蘭牟田池は令和7年でラムサール条約登録から20年を迎えます。現在でも貴重な自然が残り、絶滅の危機にあるベッコウトンボの生息地保護区に指定されており、祁答院地域のシンボルとなっています。

景色を楽しみながら走るいむた池梅マラソン大会や、初心者も子どもも楽しむことができる蘭牟田池外輪山トレイル、40店が集結するいむた池マルシェなど、人でのにぎわいイベントが多く開催されています。

また、蘭牟田池外来魚駆除釣り大会など、自然や生物を守る目的で開催されているイベントもあります。



▲いむた池梅マラソン大会



▲いむた池マルシェ

樋脇

樋脇町塔之原にある丸山自然公園のグラウンドは、平成31年3月に改修工事が完了し、日本サッカー協会の公認施設となりました。平成29年からは本市のスポーツ大使である前園真聖さんの「地元へ何か貢献したい」という思いから、前園真聖杯サッカー大会が開催されるなど、多くの方々に利用されています。



▲前園真聖杯サッカー大会

その他にも市比野温泉よさこい祭りが平成16年から開催され、全国各地から数多くのチームが出場し、樋脇地域を盛り上げています。



▲市比野温泉よさこい祭り

入来

入来麓地区は、旧増田家住宅を復元修理し、平成25年に一般公開したことをきっかけに、観光振興にも取り組んでいます。旧増田家住宅は、平成26年12月に国の重要文化財に指定され、令和5年12月には来訪者が通算10万人を達成しました。

保存会や各種団体が、地元の特産品などを販売したり、地域色豊かなイベントを実施したりしていて、市内外から観光客が訪れています。



▲旧増田家住宅



▲入来楽市

8月10日～9月10日の冠事業

冠事業は、市や各種団体などが実施する既存のイベントなどで、市誕生20周年を広く周知するために「市誕生20周年記念」の冠を付して実施しています。冠事業として実施するイベントを随時募集しています。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

時	内容	場所	
8月	1日(木)	薩摩川内港ポートセミナー in 東京	東京都
	3日(土)	市比野温泉杯サッカー大会(少年大会)(～8/4)	丸山自然公園グラウンド 他
	4日(日)	～夏のにぎわい～こども祭 to 盆おどり	SSプラザせんだい 他
	11日(日)	第2回西煌祭～夢花火 in Nishikata～	西方海水浴場
	13日(火)	里夏祭り	みなと公園(里町)
		鹿島港まつり	鹿島港
	16日(金)	川内川花火大会	川内川河川敷
	17日(土)	家庭教育学級講演会	国際交流センター
		蘭牟田池外来魚駆除釣り大会	蘭牟田池
	23日(金)	共生社会の実現を目指す舞台芸術鑑賞会「このゆびとーまれ！」	SSプラザせんだい
25日(日)	入来楽市	入来麓地区	
31日(土)	薩摩川内市入来夏まつり	入来総合運動場	
9月	7日(土)	第8回下水道フェア	SSプラザせんだい
		第33回全国市町村交流レガッタ薩摩川内大会(～9/8)	川内川河川敷

※募集が終了しているイベントもあります。



▲市ホームページ



市ホームページでは、各高校の魅力やその他の情報を掲載していますので、ご確認ください。



鹿児島県立川内商工高等学校

ホームページ



「かごしま国体記念焼酎セット」のラベルデザイン



竹オブジェ

実は生徒がこんな取り組みをしています！

●コンソーシアムSHOKO

- ・同校美術部が地域PR活動として、かごしま国体×地元酒造メーカーとコラボ企画を実施し、「かごしま国体記念焼酎セット」のラベルデザインを手掛けました。
- ・インテリア科・商業科では、高校総文祭やかごしま国体に向けて、薩摩川内市企業連携協議会の竹バイオマス部会と協働して竹オブジェを製作し、川内駅に展示しました。

在校生からメッセージ

商業科3年
川手志紗さん



部活動数が多く、一人一人の生徒が仲間と苦楽を共にしながら、自分自身の好きなことに打ち込んでいます。
また、学科数も4つと多く、専門教科の先生方の指導のもと、資格取得に向けた勉強にも励むことができます。部活動、勉強において成果を残している本校ですが、イベント数も多く、体育祭や笑幸祭(文化祭)、クラスマッチなどでは、生徒全員が一体となり盛り上がり、充実した毎日を送っています。

本市の未来を担う高校の取り組みを紹介!



鹿児島県立川薩清修館高等学校

ホームページ



実は生徒がこんな取り組みをしています！

●生徒による出前授業

- ・小中高連携の一環として、高校生が小学生や中学生に出前授業を行っています。授業内容は、陸上競技やホッケー競技、そろばん、ビジネスマナーなどで生徒が先生として授業を行い、地域との交流を深めています。

かごしま国体でホッケーの試合をしている様子

在校生からメッセージ



ビジネス会計科3年
内村詩月さん

少人数を複数の先生が担当しているため、分からないところはすぐに質問できる環境が整っており、分かるまで丁寧に教えてもらえます。
資格取得に向けて、一生懸命勉強しています。



総合学科3年
光瀬寿哉さん

学年・性別問わず仲が良く、体育祭やクラスマッチなど、学校行事はとても盛り上がります。
生徒のことを真剣に考えてくださる先生方ばかりで、何でも相談しやすいです。両親への感謝の気持ちを忘れずに、勉強や部活動に日々楽しく学校生活を過ごしています。



学校法人川島学園れいめい高等学校

ホームページ



コラボ商品を作成している様子



もじよカヌレ

実は生徒がこんな取り組みをしています！

●地元のお店とコラボ

- ・令和5年度に、みらい探究コースの有志による「スイーツプロジェクト」で、地元のお店とコラボして「もじよカヌレ」と「豆腐ドーナツ」を開発、販売しました。開発したスイーツは、れいめい祭(文化祭)や鹿児島市、日置市のフェスで販売し大盛況でした。

在校生からメッセージ

工学科3年
台場晴仁さん



他の高校にはない学科やコースがあり、卒業後の進路を幅広く見つけられることが魅力です。
工学科では、実際に工事現場を見学したり、校舎の塗装やアスファルトの補修を行ったりと、実践の中で学びながら自分の強みを見つけることができます。また、さまざまな資格取得に挑戦することができ、2級建築施工管理技士の資格取得に向け勉強に励んでいます。



鹿児島県立川内高等学校

ホームページ



「総合的な探究の時間」でのグループワークの様子

実は生徒がこんな取り組みをしています！

●可愛山プロジェクト

- ・研究テーマを設定し、1年次は地域探究に取り組み、2年次からは個人課題探究として、各自が調査・研究を進め、3年次に研究成果のプレゼンテーションを行います。1年生全員が、令和2年度より「総合的な探究の時間」で薩摩川内市みらいアドバイザーとして委嘱を受けています。

令和5年度
校内発表会
最優秀賞

テーマ 健康トクトク大作戦!
内容 がんの予防を周知するためのアイデアを提案。今年度、生徒自らががん検診の啓発動画の制作を開始する。

在校生からメッセージ



普通科3年
中尾璃桜さん

先生方が熱心に指導してくださり、安心して勉強できる環境が整っています。部活動のレベルも高く、切磋琢磨しながら自己向上に努めています。



普通科3年
宇田健吾さん

文武両道の実現に向けて、学校全体でメリハリをつけて行動することを意識しています。
生徒会長として、学校全体で同じ方向を向いて活動できるよう、協力し合いながら頑張っています。



市長と振り返る 薩摩川内市誕生20周年

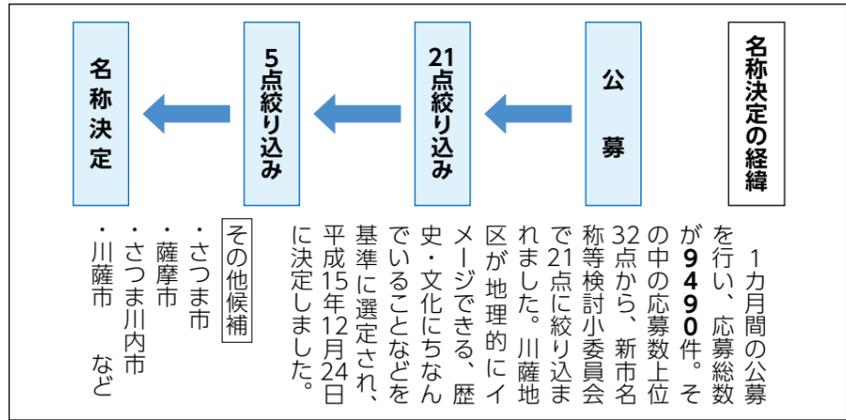
vol. 6



今月は、「薩摩川内市」の名称が決定したときの当時の気持ちをインタビューしました。

新市名称が決まったときの気持ちと、決まる前との気持ちの変化を教えてください。

市長 まずは、9490件と多くの応募があり、多くの市民の方々に関心を持ってもらえたことをとてもうれしく感じました。



合併協議の集大成



本庁秘書広報課 企画総務・広聴広報G (内線 4121)

▲9市町村の協議により新市名称が決定 (平成15年12月)

安全で美しい薩摩川内市のために 屋外広告物のルールを守りましょう！

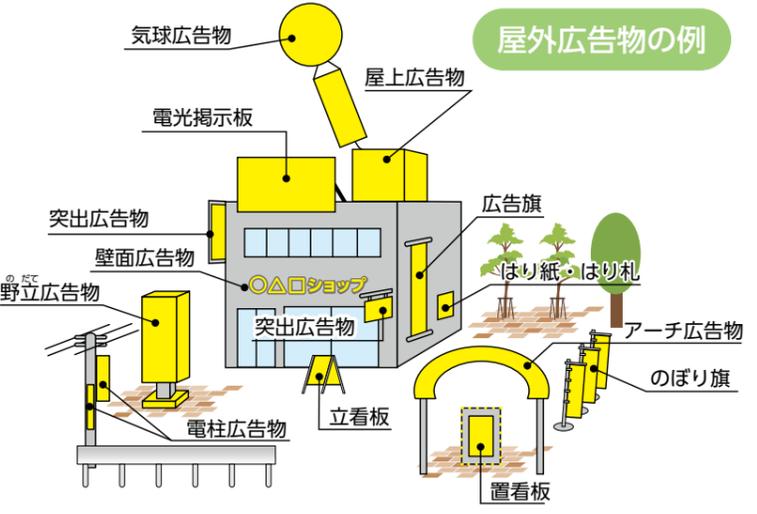
問合せ
本庁都市整備課都市計画・景観G (内線 3411)

屋外広告物とは

外出した際に目にするお店の看板や建物の名称(ロゴ)などの他、はり紙や立て看板、のぼり旗など容易に設置・撤去できる掲出物件などのことをいいます。何気なく見掛けるまちの中の広告物。まちを彩り、私たちにさまざまな情報を提供してくれますが、表示にはルールがあります。

屋外広告物定義

- ①常時または一定の期間継続して表示されるもの
- ②屋外で表示されるもの
- ③公衆に表示されるもの
- ④看板、立看板、はり紙、はり札、広告塔、広告板、建物その他の工作物などに表示されたものやこれらに類するもの



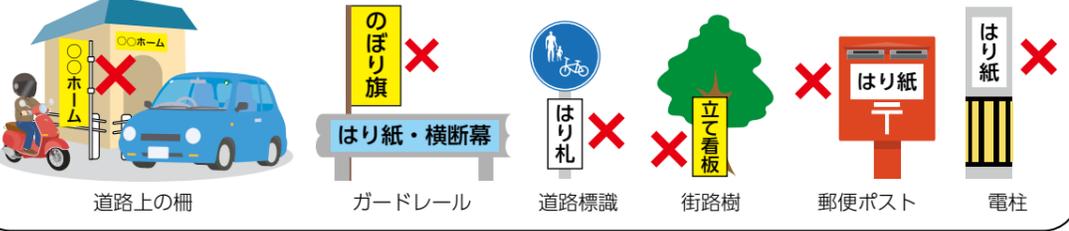
屋外広告物の例

ルールを無視した屋外広告物の表示は、まちの景観を損なうだけでなく、視界を遮るなど事故につながる場合があります。安全で美しいまちになるよう設置の際には以下のルールを守りましょう。

ルールの概要

- ① 屋外広告物を「表示できる場所」と「表示できない場所」があります。
- ② 場所によって表示できる大きさや高さが異なります。
- ③ 屋外広告物を表示する際は、市の許可が必要です。
※ご自身の店舗・会社の看板を店舗・会社のある敷地内に設置する際は、屋外広告物の大きさなどにより手続きが不要となる場合があります。事前にご相談ください。申請の手続きなど詳しくは市ホームページをご確認ください。
- ④ 著しい色あせや塗料の剥がれがあるもの、老朽化して倒壊、落下の恐れがあるものは設置できません。
- ⑤ 場所に関わらず、表示が禁止されている物件(禁止物件)があります。

場所に関わらず、表示が禁止されている物件(禁止物件)の主な例



●屋外広告物適正化旬間について

本市では、定期的に違反広告物の指導や撤去を行っています。特に、毎年9月1日～10日は国土交通省が設定する屋外広告物適正化旬間に併せて、国・県・警察・九州電力(株)・西日本電信電話(株)と協力し、違反広告物の指導や撤去を行っています。



●屋外広告物設置者や管理者の方へ

屋外広告物は、台風などの強風や地震の揺れ、劣化によって落下や倒壊など発生する場合があります。定期的な点検、修繕を行い、通行人などに被害が及ぶことのないよう十分配慮してください。詳しくは市ホームページをご確認ください。



▲市ホームページ

地域を支える民生委員・児童委員、主任児童委員および保護司

問合せ
本庁社会福祉課企画総務G (内線 2721)

【民生委員・児童委員、主任児童委員】

民生委員は、民生委員法に基づいて厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員で、児童委員も兼ねています。特定の区域を担当し、生活の不安やお金のこと、子育てや介護、福祉サービスのことなど、困り事について相談対応や支援も行い、住民の立場でまちの福祉を担っています。

また、主任児童委員は、上記委員の中から厚生労働大臣に指名され、児童福祉に関する事項を専門に担当します。特定の区域は担当せず、行政や学校、児童相談所などの児童福祉関係機関と連携を図り、児童委員の活動を援助・協力します。

【保護司】

保護司は、保護司法に基づいて法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員です。犯罪や非行をした人に対し、地域における立ち直り支援や再犯防止のための活動を行っています。その他、地域住民の一人として、地域社会の安全安心に貢献するという理念のもと、地域住民からの相談対応、学校や地域の防犯活動団体と連携・支援を行うなど、幅広く活動しています。



子どもたちが安心して暮らせるように

薩摩川内市民生委員児童委員協議会 連合会主任児童委員部会 部長 山元一彦さん

私たち主任児童委員は、子どもたちにとって「身近な大人」として、安心して生活ができるよう見守りや相談を受けるボランティア活動をしています。

市内には26人の主任児童委員がいます。小中学校などを訪問し、教職員と学校生活について意見交換を行い、子どもたちの困り事について適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を担っています。その他にも地域ごとに部会を開催し、委員同士の情報交換や小中学校と合同研修会を行い、スキルアップに努めています。皆さんからの相談内容は、お聴きすることができないこともありますが、身近な相談相手として力になれるよう活動していきます。

なお、今年には主任児童委員制度創設30周年になります。今後も関係機関と連携し、ますます活動が活性化できるように取り組んでいきます。

助かる命を助けるために 9月9日は「救急の日」

「夜間救急医療体制」を守るために、
私たちができること

問合せ／市民健康課地域医療G
(すこやかふれあいプラザ内)
☎(22)8848

現在、医療従事者の不足や医師の高齢化などを問題に、本市の夜間当番医制度は厳しい状況になりつつあります。また、緊急性のない軽症患者が受診する「コンビニ受診」も問題となり、体制維持も難しくなっています。

そこで今回は、川内市医師会会長の岩川俊二氏に本市の救急医療体制についてお話を伺いました。

●救急疾患とは？
緊急に適切な手当てをしなければ、生命維持が困難となる病態で、その生命を守る医療が救急医療です。

●川内市医師会の救急医療体制
昭和54年 21当番医による夜間救急輪番医制を開始
平成12年 13当番医となる
・全国でも珍しい輪番医を開設
平成13年 小児救急医療支援として、小児救急医療体制(川内方式)を開始

平成18年 一次救急診療体制を開始
当番医の済生会川内病院、川内市医師会立市民病院の一次救急診療を支援するため、会員医師が出向き、23時まで対応する一次救急診療体制を開始しました。

平成27年 当番医と眼科医、耳鼻咽喉科医、精神科との連携体制を整備
精神科救急は、平成8年に県精神科救急医療システムが開始され、平成27年には、精神科救急医療電話相談窓口、精神科救急情報センターが開設され、県精神科救急医療体制が構築されました。

川内市医師会では、当番医への支援として、川薩地区精神科救急医療体制を整備しました。

本市の救急医療体制を守る

▲川内市医師会会長 岩川俊二氏

現在は、9当番医と会員医師の協力で救急医療体制を維持しています。川内市医師会は、今後も皆さんが安心して暮らせるように、薩摩川内市と協働し、より良い医療体制になるよう努めていきます。これから紹介する3つのお願いを守っていただくよう、お願いします。

心掛けていただきたいこと

- ① かかりつけ医を持ちましょう。
- ② やむを得ず昼間に受診ができない場合などは、必ず23時までに受診しましょう。
- ③ 23時以降は急患、重症患者に限りません。救急車を呼ばなければ危険と予想される場合以外は、朝まで様子を見て、かかりつけ医を受診しましょう。

■夜間当番医制度の状況

本市の夜間当番医制度は、川内市医師会の会員および済生会川内病院などの協力により、現在、9医療機関により運営されています。

夜間当番医の診療時間は、原則、18時から23時までです。

夜間当番医を内科系・外科系に分けて市民へ開示している地域は県内では本市のみで、夜間救急に関わっている医師、看護師、その他多くの方々の努力により体制が維持されています。

■現代の救急医療体制

救急医療を維持する上で、最大の課題は**夜間当番医の維持**です。

夜間の当番医は、昭和54年4月1日から始まった制度で、「休日・夜間の入院診療を必要とする重症救急患者の医療を確保する」ためにできたものです。

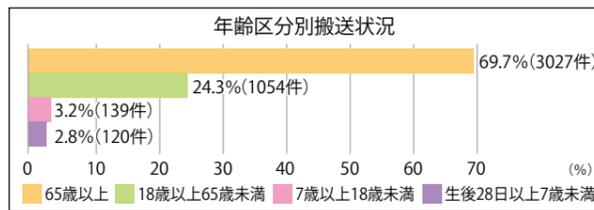
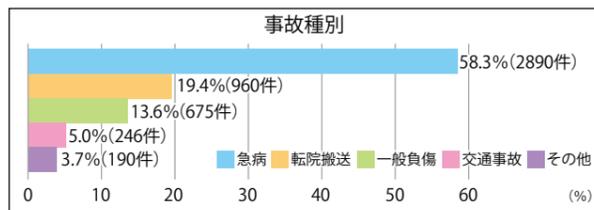
しかしながら、一次救急、二次救急が混在した形の運営となっており、医師不足や医師の高齢化、働き方改革の中、厳しい状態での運営が続いています。



▲現代の救急医療体制

		一次救急	二次救急	三次救急
平日	昼	かかりつけ医	救急指定病院	鹿児島市内の 基幹病院
	夜	夜間当番医		
休日	昼	休日当番医	当番医(一部非公開)	
	夜	夜間当番医		
		原則 18時～23時	18時～8時30分	

▲川内市医師会の救急医療体制



*救急を要請された全ての方が搬送されているというわけではありません。

■救急搬送の状況

本市の令和5年度の救急車出動件数は4961件と、過去最大となりました。事故種別と年齢区分別搬送は次のとおりです。

▲当番医の情報はこちらから
○広報薩摩川内「お知らせ版」
(毎月25日ごろ発行)
○消防テレホンサービス
☎(27)1199

本市では、救急搬送時に有効なネット(地域医療介護情報ネットワーク)を導入しています。詳しくは、かごネットホームページ、広報薩摩川内5月通常版をご確認ください。



▲市ホームページ



▲市消防局ホームページ



▲かごネットホームページ



▲広報薩摩川内5月通常版